

今年の1月から福島農林合同会社に勤務しています。「忙しさはありつつも、やりがいを感じます」。



福安恵巨さん(上飯樋)

仙台から移住をして5年目の福安さん。小学校入学のタイミングだった一人娘の夢七(ゆな)さんも5年生になりました。「移住をしたことで夢七は友達と離れる苦労があったと思うのですが、今はこのクラスでよかった、楽しいと話してくれます」。この秋にはセンター地区に引っ越し予定。借りていた住宅が地震の被害にあい困っていたところ、親身になってくれた知り合いの紹介で引っ越し先が見つかったそう。「村にも皆さんにもよくしていただいて感謝しています」。新たな一歩を楽しみながら、暮らしを紡ぐ福安さんです。



飯舘で育くむ移住ライフ

移住した皆さんに「現在地」を聞きました

白衣の卓也さんと妻の早(さき)さん、前列は3人の子どもたち。右から緑(りよく)さん、燕さん、雫さん。



長田卓也さん(小宮)

自宅に併設の整骨院には、多くの村民が通っています。院長で柔道整復師の長田さんは、国体にも出場したバレーボール選手で、後輩家族も飯舘村に移住してきています。今年は野菜の栽培・出荷にも挑戦。農業は未経験でしたが、分からないことは地元の方に聞きに行く行動力でカバー。「好調だったインゲンを来年は増やしてみよう」と考えています。妻の早さんは「皆さんによくしてもらって」と村の暮らしを楽しんでいる様子。「3人の子どもと一緒に通園・通学できて仕事がしやすいですし、家族の時間も増えました」。

伊集院博さん(草野)

「5月にもヒョウが降り、11月からは霜が降る。まだ一つひとつが勉強だよ」。沖永良部島(鹿児島県)から移住して4年目。伊集院さんは、花きとサツマイモの栽培に取り組んでいます。妻の直子さんが守る島の畑もあり、夫婦で行き来をしながら、全く気候の異なる2地域での農業に挑戦しているのです。草野赤坂に一軒家を、畑の近くには調整用の作業小屋を借りています。繁忙期の人手の確保など悩みは尽きませんが、今日もご夫婦は笑顔です。「失敗あるのは仕方ないこと。失敗も勉強よ。乗り越えて前進あるのみ」。



ソリダコの畑で。2地域で農業を営む上で妻の直子さんの協力は欠かせません。

小原健太さん(上飯樋)

この夏、3棟のハウスで育てたトルコギキョウを初めて出荷した小原さん。サラリーマンからの転身で農業はゼロからのスタート。建てたばかりのハウスが暴風被害にあうなど困難も経験しましたが、先輩方のアドバイスにも助けられ、出荷も無事に終えることができました。

移住から2年が経ち、7月には納屋付きの借家に転居。妻の貴子さんは企業等で働きながら小原さんの挑戦を応援しています。「まだまだ不安だらけ」と笑う小原さんですが、多くの人とつながりながら、村の環境を生かせる花きビジネスも構想しています。



品種もさまざまなトルコギキョウを栽培しました。ハウスと作業小屋を増築し来年は5棟で栽培する予定。

開講中!「わくわく農業体験塾」 みんな一緒に畑で学ぼう



教えられたり教えたり。畑での交流はいかがですか。

移住をした人もそうでない人も

野菜づくりを村の名人に学ぶ「わくわく農業体験塾」を開いています。年度の初めに育ててみたい野菜について話し合い、村内のほ場に苗を植えて、栽培や収穫を行っています。移住してきた人もそうでない人も、土の感触を味わいながら交流を深め、昨年は農作業を終えた冬季に、みんなでコンニャクやキムチをつくりました。今年は凍み餅づくりに挑戦する予定です。参加してみたい方はぜひ、生涯学習課(☎0244420072)までお問い合わせください。

交流する村民の方にも聞きました

「小原さん(右上の記事)の奥さんとは勤務先で知り合っ、ハウスが壊れたと聞いたの」。野菜の苗を提供したのをきっかけに、佐藤家と小原家のお付き合いが始まったそう。一方、地域おこし協力隊の二瓶さんは「いいいて結い農園」で作業を共にし、遊びに来るようになりました。「漬物をね、おいしいおいしいって食べてくれるの」。協力隊の仲間を連れて来ることもあります。「移住して来てくれた皆さんを応援したいと思いますよ」。長田さん(上の記事)の整骨院にも、定期的に通っています。

縁あって遊びに来てもらうように 出会いを楽しんでいます



佐藤義明さん・ひろ子さん(大久保・外内)